

学校番号				
2	4	0	1	1

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 3 月 18 日

札幌市立東白石小学校

1 今年度の重点目標

～思いやりの心と未来を拓く逞しさを培う学校の創造～

2 本年度の経営方針

- 思いやりの心を基盤とした豊かな人間性の育成
- 主体的、探究的に学ぶ態度の育成
- 健やかな体を育み、安全に気を付ける子どもの育成

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価			
		達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ		
目指す子ども像	思いやりの心と未来を拓く逞しい子	A	思いやりのある行動が、児童に定着してきた。より主体的に学習等に取り組み姿勢を育むための手立てを講じたため、落ち着いた授業を進めることができている。	A	A		
学校関係者評価委員会による意見		落ち着いた授業に臨んでいる。思いやりは人間としての原点である。継続して実施することが大切である。					
分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価		
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ	
調和のとれた 豊かな心 健やかな体	学ぶ力	5つのポイント	A	生活評価週間などの運動期間はさまりを守ることができる。さまりを守る大切さを理解し、行動に移せる児童が増えた。粘り強く指導を重ねるとともに、学級活動などでさまりを守る必要性を考えさせ、児童が自身の行動に気付けるようにしていきたい。	A	A	
		情報共有・連携の充実	B	家庭学習の習慣づけを各担任から働きかけ、定着してきた。児童自身もこれを実感してきており、学校の働きかけを前向きに見えている家庭が増えた。今後も継続するとともに内容や量について家庭と連携をより図れるように参観懇談等でも積極的に話題にしていきたい。	A	A	
		課題探究的な学習	A	学習に興味をもって取り組む児童が増えた。持続する力をつけるため、教材教員の工夫や端末を効果的に活用することで、主体的に活動できる子が増えた。今後も継続して基礎基本の定着を図りながら、わかるできる楽しい授業づくりを目指し、粘り強く取り組めるように働きかけていく。	A	A	
		5つのポイント	A	教師や友達の話や先生の話を聞き、理解しようとする姿が見られているので、意図的に話し合う場を設け、理解を深めていく。	A	A	
	豊かな心	命を大切に する指導	児童は学校生活を 楽しんでいる	A	児童の様子を観察し、必要な言葉かけや保護者との連携を図るために、組織として対応を進めた。	A	A
		道徳教育	児童は行事や学級活動を通して、協力したり、支え合ったりする「思いやり」の気持ち大切に、温かな関わりができていく。	A	友達のよいところを見つけ伝え合うことで、自分のよさに気付くよう学校全体で働きかける機会を増やした。行事での感想交流や異学年交流活動、キャリアパスポートの活用も子どもの思いやりの心を育成していくのに効果的であった。次年度も継続していく。	A	A
		その他	児童は、友達や先生、お客さんに対して進んであいさつすることができている	B	あいさつは定着してきたが、自分から進んであいさつできる子が多くないところが課題である。一人一人が目標を持ち、達成できるように継続して働きかけていく。	A	A
	健やかな体	「健やかな体」育成プログラムの実施	児童は体育の授業や休み時間に、進んで運動に取り組んでいる	A	グラウンドで積極的に体を動かして遊ぶ子が増えた。また、教棒、マット、跳び箱週間に合わせた時は、多くの児童が積極的に取り組んでいた。継続的に運動量を増やすように全校で取り組んでいく。心身の発達、食育の面からも授業を通して意識化させることができる。	A	A
	学校関係者評価委員会による意見		学習ツールとしてのタブレットが集中力を高め、子どもたちが十分に使いこなしている。今後も学習効果を期待したい。				
	札幌らしい特色ある学校教育の推進	未来の札幌を考える【環境】	学校独自の教育活動に取り組む、成果を上げている	A	伝統的に続けてきた学習をコロナ禍前に戻すことができた。環境や命の繋がりについて考え、思いやりの心を育てることができた。	A	A
子どもの発達への支援	特別支援教育	児童の相互のトラブルや悩みが深刻化する前に対応することができている	A	各担任の迅速な対応と特別支援教育コーディネーターを中心に情報の共有化を図ったことで、事前に対応策を講じることができた。担任も保護者と連絡を密にして大きなトラブルに発展することはなかった。次年度も情報収集と共有化を図っていく。	A	A	
信頼される学校の創造	安全教育	児童の安全に対する指導体制が整っている	A	スクールガードの方やPTA活動として多くの保護者の方が登校点検にご協力いただいたおかげで、安全に登下校することができた。校内においても見守りを行い、大きな怪我等につながらなかった。	A	A	
	家庭や地域とともに進める学校づくり	学校からの各種の「学年・学級も含む」やホームページ等で、児童の様子や学校の取組を分かりやすく伝えている	B	グループフォームを使っての欠席連絡が定着し、保護者とのやり取りがスムーズになった。ホームページからの発信については、内容や回数工夫し、わかりやすく発信したことで閲覧回数が増えた。	A	A	
教科等の枠組を超えた教育	人間尊重の教育	個々を尊重する態度が身に付いている	A	本校の重点である思いやりの心を醸成するために、様々な働きかけを行った成果が表れてきた。引続き、働きかけていく。併せて、道徳教育の充実や人権教室を取り入れ、違う面からのアプローチも行っていく。	A	A	
学校関係者評価委員会による意見		児童が安心して学校で過ごせるための安全教育を今後も充実していただきたい。					
学校独自に設定する分野	パートナ一校単位での「小中一貫した教育」の推進	A	パートナ一同士での取組や実態を積極的に交流することができた。次年度はランドデザインを目指している姿に近づいたために実践や具体的な取組を行っていく。	A	A		
	業務改善・働き方改革	A	会議の持ち方や回数、内容などの共通理解が深まったことで、各々の働き方に工夫がみられるようになった。情報共有を効率よく行うことで、授業づくりに時間をかけられるようになった。	A	A		
学校関係者評価委員会による意見		小中一貫した教育に向けた取り組みを今後も充実して欲しい。					